

## 2010年過ぎまでのプルトニウムの回収と利用

### 【回収】

これまでの海外再処理委託契約に基づいて回収されるプルトニウムは、累計約30トンと見積られる。

国内再処理工場においては、六ヶ所再処理工場が本格操業した段階で年間約5トン弱のプルトニウムを回収することが予定されている。

### 【利用】

もんじゅが運転再開した後は、研究開発用に年間数百キログラムのプルトニウム需要が見込まれる。

電気事業者は、2010年までにプルサーマルを16～18基の規模まで順次拡大しつつ実施していくことを計画している。

プルサーマルには、既に具体化している計画では一基当たり年間約0.3-0.4トンのプルトニウムの利用が見込まれる。

全炉心MOX燃料装荷の大間原子力発電所では年間約1.1トンの利用が見込まれる。

プルサーマルの実施規模の拡大に合わせて、当初は海外再処理により回収されるプルトニウムが利用されるが、その後は国内再処理工場で回収されるプルトニウムが利用される予定。

(出典)第二分科会報告書より作成

## 世界のエネルギー資源埋蔵量

	石 油	天然ガス	石 炭	ウラン
確認可採埋蔵量 (R)(注2)	1998年末 1兆529億バレル 全世界	1998年末 146.39兆m <sup>3</sup> 全世界	1996年末 9,842億トン 全世界	1997年1月 436.3万トン 全世界
地域別 賦存 状況	北米	8.1%	5.7%	26.0%
	中南米	8.5	4.2	2.3
	西欧	2.0	3.6	7.5
	中東	64.0	33.8	0.1
	アジア・太平洋	4.1	7.0	29.7
	アフリカ	7.2	7.0	6.2
	旧ソ連・東欧	6.1	38.7	28.3
年生産量 (P)	1998年 73,105千bbl	1998年 2兆2,718億m <sup>3</sup>	1995年 46.5億トン	1996年 3.6万トン
可採年数 (R/P)	1998年 全世界41.0年	1998年 全世界63.4年	1996年 全世界21.2年	(注1)1996年 全世界72年
出 所	BP統計(1999年)		世界エネルギー 会議(1998年) (3年に1回開催)	OECD/NEA, IAEA (1997年)

(注1):ウランについては、十分な在庫があることから年生産量と年消費量のバランスがとれていないため確認可採埋蔵量を年消費量(6.1万トン)で除した値とした。

(出典)総合エネルギー統計平成11年度版

(注2):確認可採埋蔵量:現在の技術的・経済的条件下で採取可能と推定される資源の量